

「木曾川水系連絡導水路計画の問題点」の提出にあたって

伊藤達也(金城学院大学現代文化学部)

今回、貴委員会に意見書「木曾川水系連絡導水路計画の問題点」を提出させていただきます。題名からも明らかなとおり、これは木曾川水系河川整備計画全体を見通した意見書ではありません。貴委員会と同時並行に行われ、8月22日に最終案が発表された木曾川水系連絡導水路計画だけを対象にした意見書です。しかし、内容としては貴委員会で議論されているテーマに関わる点が多いと考え、あえて提出させていただくことにしました。

大変申し訳なく思っておりますのは、8月22日に木曾川水系連絡導水路最終案が発表されてから執筆を開始したため、まだ意見書として完成していない点と、同じく限られた時間で書かせていただいたため、十分な推敲が済んでおらず、ところどころに形式の不統一がある点です。時間の制約が理由であるにしろ、本来ならば許されることではありません。ここに深くお詫び申し上げます。

今回提出させていただいた意見書において課題として残されていますのは、木曾川における河川水利秩序のあり方における私たちの見解、特に正常流量の確保をめぐる問題点の指摘に関してです。これにつきましてはできるだけ早く見解をまとめ、貴委員会に提出させていただく予定にしており、本意見書の目次では「 . 正常流量の確保問題(未完成)」と表記させていただきました。

正常流量につきましては、今、私たちが考えている問題点を箇条書きに指摘させていただくとすれば、木曾川において木曾成戸地点で $50\text{m}^3/\text{sec}$ を通年で維持しようとしている素案はあまりにも大きな流量であり、かつ木曾川における水利用の歴史性を無視するものであること、その一方で長良川において長良川河口堰下流への放流量が $4\text{m}^3/\text{sec}$ (アユの非降下期) である点(正常流量としては忠節地点 $26\text{m}^3/\text{sec}$ ですが、長良川河口堰が $22.5\text{m}^3/\text{sec}$ の開発水量を持っている点から、実際に長良川河口堰を経由して放流される水量は $4\text{m}^3/\text{sec}$ に限定されると考えられます) は、長良川の河口域の環境を考えた場合、過少であること、揖斐川における正常流量を万石地点 $30\text{m}^3/\text{sec}$ とすることは揖斐川の河川規模からして考えられないほど膨大な流量であること、何よりもこうした正常流量の確

保を徳山ダム並びに木曾川水系連絡導水路によって果そうとしている点、です。河川環境の改善を主目的とする正常流量の確保において、ダムでその水を確保しようとする案は、ダム建設並びにその関連施設建設に伴う環境への影響を無視したものです。

これらにつきましてできる限りの検討を重ねた上で改めて意見書を提出させていただく予定です。なにとぞご理解の上、ご査収いただけますようお願い申し上げます。失礼します。